

|||||||
原著論文
|||||||

TOEIC テストから考える中学英文法の重要性と指導内容

田 中 誠

(長崎国際大学 人間社会学部 国際観光学科)

The Significance of Junior High School English Grammar and the Contents of Teaching from a Viewpoint of the TOEIC Test

Makoto TANAKA

(Dept. of International Tourism, Faculty of Human and Social Studies,
Nagasaki International University)

Abstract

It is important to learn basic English grammar taught in junior high school thoroughly in order to acquire English language skills effectively. Various research has been done so far on the importance of junior high school English grammar. With reference to previous studies, this paper explores how such basic knowledge plays a role in solving the questions of the TOEIC L&R.

Those surveyed are 540 questions of Part 5 in seven *TOEIC Official Test-Preparation Guides*. If one understands all the words used there in meaning and usage, how many questions can be solved by making use of the knowledge of junior high school English grammar only? The results show that 96.3% of them, 520 questions out of 540, can be solved by that knowledge. This is much more than the author expected. It illustrates that it is essential to master basic English grammar and expand vocabulary, even for the purpose of solving high level questions like TOEIC L&R. These two points are very crucial when teaching English lessons every day, precisely because emphasis is put on communication skills.

Key words

TOEIC, English grammar in junior high school, vocabulary

要 旨

英語の習得には、まずは基本である中学英文法をマスターすることが重要である。中学英文法の重要性に関する研究はこれまでも様々なものが行われている。本稿では、それらの先行研究を参考に、TOEIC L&R の問題を解く上で、中学英文法の知識がどれくらい重要な役割を果たすのかを検証することにした。

調査したのは、TOEIC 公式問題集 7 冊の Part 5 の 540 問についてであり、使用されている単語はすべて意味・用法がわかっていると仮定した場合に、中学英文法の知識だけで解ける問題がどれくらいあるのかを調査した。調査の結果、中学英文法の知識で解答できる問題は、540 問中 520 問であり、その割合は 96.3% であった。今回の調査結果は、筆者の予想を上回る数値であった。TOEIC の該当問題の大部分が中学校レベルの文法で解けるということが明らかとなったことで、TOEIC のような難易度の高い問題を解く際にも、中学英文法をマスターすることは重要であること、語彙力の強化が必要であることを再認識させられた。日頃の英語指導においても、コミュニケーションを重視するからこそ、この 2 点に重点を置いた指導は重要となる。

キーワード

TOEIC、中学英文法、語彙力

1. はじめに

日本の英語教育は、これまで多くの批判を受けてきた。大学まで英語を学んでも、英語ができないという批判にさらされてきた。この要因には、様々なことが考えられる。現在、その全貌が明らかになってきている次期学習指導要領の改訂においても、外国語教育（実質は英語教育）の抜本的強化策が計画されている。「大学や海外、社会で英語力などを伸ばす基盤を確実に育成」することや、「成熟社会にふさわしい我が国の価値を海外展開したり、厳しい交渉を勝ち抜く人材の育成」を目指し、「新たな外国語教育」と銘打って、小学校高学年から、外国語は教科として導入予定である。このような学習指導要領における外国語の強化策は、現行の英語教育がうまく機能していないという認識が背後にあると考えられる。しかし、学習指導要領の改訂を待つまでもなく、現場の英語教師の大部分は、生徒や学生の英語力を向上させるために、自分の時間を削って教材研究をし、努力をし続けていることも事実であろう。この努力を無駄にしないためにも、どのような点に注意して日頃の授業を展開していけばいいのかということを明らかにしていくことには大きな意義がある。

この稿では、中学校で習う英文法¹⁾の重要性を TOEIC L&R の問題の内容から分析し、その指導内容についても考察を加えたい。

これまでも中学校で習う基本的な英文法の重要性は、様々な研究が指摘している。例えば、金谷（2009）は中学、高校の英語の教科書を適切にこなしていくことの重要性を指摘しているし、アルク教育総合研究所（2015：130）は、中学英文法の重要性を指摘し、「中学英文法のみで解答できる大学入試問題は、調査対象問題の79%」と主張している。ただし、このアルク調査の前提は、「試験問題に出る単語はすべて意味・用法がわかっていると仮定した場合」（*ibid.*: 131）ということなので、語彙力は、もちろん必要になる。

特に、これらの先行研究に触れ、本学でも力を入れている TOEIC L&R の試験問題では、アルク調査と同様に、試験問題に出る単語はすべて意味・用法がわかっていると仮定した場合にどれくらい解けるのかということを調査してみたいと考えるようになった。

TOEIC とは、Test of English for International Communication の略称であり、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通の英語試験で、特にビジネスで使用する表現が多く出題される。現在、3種類ある TOEIC Program²⁾のうち、TOEIC L&R では、リスニング495点満点、リーディング495点満点のトータル990点満点のスコアで評価される（cf. Educational Testing Service [2016：7]）。また、TOEIC L&R では「実際のコミュニケーションで必要とされる英語能力を評価するために、現実に即した状況や設定をテスト上でも再現」（*ibid.*: 7）していると考えられるので、本稿で、「TOEIC の問題が解ける」と筆者が表現する場合は、試験問題対策として解けるという意味だけでなく、実際のコミュニケーションでも使えるはずであるということを意図している。試験レベルの比較対象として、英検との比較は難しいが、本学では、英検 2 級を取得している学生が TOEIC L&R を受験しても、500点くらいしか取得できない場合も多い。特に大学1年生で英検 2 級を取得している学生は、自分ではある程度英語ができと思っている者もいるので、990点満点の半分程度しかスコアが取れない TOEIC L&R の難しさに圧倒される者もいる。大学入試センター試験の英語と比較した場合に、日本英語検定協会（2015）の調査によると、大学入試センター試験（英語）の平均151点/250点（得点率60.4%）は、英検 2 級合格相当（相関係数 $r=0.894$ ）となっている。この数値からも、TOEIC L&R の難易度は高いことがわかる。このように、難易度が高い英語試験の TOEIC L&R において、中学英文法はどれくらい役に立つのかを調査したい。

2. 方 法

(1) 調査及び対象問題

TOEIC L&R の問題は非公開であり、本試験に即した問題は、公式問題集が一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会より出版されている。よって、これまでに出版された7冊の公式問題集の問題を調査することとした³⁾。また、今回は中学英文法の重要性を調査することが目的であるので、その公式問題集の中から調査対象問題を文法・語法問題の「Part 5 単文穴埋め問題」に絞った。該当する問題は、合計で540問となった。この Part 5 に絞った理由は、Part 5 が最も文法力を試されるパートであり、その割合もリーディング問題100問中30問となっていることから、TOEIC の得点に大きな影響力を持つと考えられるからである。

(2) 調査内容と手法

TOEIC の各公式問題集の「Part 5 単文穴埋め問題」をデータベース化するため、まずは、該当問題を全て Excel のファイルに入力をした⁴⁾。作成されたデータを基に、前述のアルク調査の前提同様に、入力した540問の該当問題において、使用されている単語はすべて意味・用法がわかっていると仮定し、中学英文法の知識でそれらの問題が解けるのか、また正解を導き出すために、具体的には主にどのような文法事項を活用する必要があるのかについて、一問一問筆者自身が問題を解いて確認をし、シートにその内容を入力していった。

文法事項の分類は、中学生、高校生向けの英語参考書の項目として挙がってくるような事項を念頭に、大枠で分類を入力していき、全問題の確認をしたのち、類似のものをまとめていく作業を行った。問題の中には、複数の文法項目を活用しないと解けないような問題もあり、単純には分類しきれないが、定量的分析のために主に必要な事項を優先して分類した。

3. 結 果

調査した540問の該当問題において、使用されている単語はすべて意味・用法がわかっていると仮定した場合に、中学英文法の知識だけで解ける問題の数は、540問中520問であり、その割合は96.3%であった。つまり、高校レベルの文法の知識を必要とする問題は、たったの20問しかなく、その割合は、3.7%に過ぎないという結果となった。

これらの結果を、表にまとめて提示する。表1は、分類した結果を出現回数の多い順に並べたものであり、ごく基本的な項目が並んでいる。

表1. 出題項目の出現回数

項 目	出題数	%
名詞	96	17.8%
副詞	90	16.7%
形容詞	76	14.1%
熟語関連	36	6.7%
前置詞	40	7.4%
動詞	34	6.3%
接続詞	30	5.6%
受動態関連	25	4.6%
代名詞	22	4.1%
比較関連	16	3.0%
時制関連	12	2.2%
不定詞	10	1.9%
分詞	9	1.7%
等位接続詞の前後の形式	8	1.5%
関係詞	8	1.5%
仮定法（高校レベル）	7	1.3%
関係詞（高校レベル）	6	1.1%
動名詞	5	0.9%
分詞構文（高校レベル）	4	0.7%
命令文	3	0.6%
時制関連（高校レベル）	3	0.6%

表2には、表1の項目をさらに細分化したものを提示している。表2では、特に同じ名詞を選択する問題でも、名詞という品詞を意識して正解を出す問題なのか、選択肢自体が全て名詞で、文の意味がわからないと解けない問題なのかの区別がつくようになっている。例えば、同じ名詞を選択する問題でも次に示すように2種類がある。（正解の下線は筆者）

表 2. 出題項目の出現回数 (細分類)

項 目	出題数	%
選択肢の全てが名詞	51	9.4%
熟語関連	36	6.7%
副詞を選択	51	9.4%
名詞を選択	45	8.3%
形容詞を選択	44	8.1%
選択肢の全てが副詞	39	7.2%
選択肢の全てが形容詞	32	5.9%
選択肢の全てが前置詞	27	5.0%
選択肢の全てが動詞	26	4.8%
接続詞を選択	24	4.4%
人称代名詞を選択	18	3.3%
比較関連	16	3.0%
前置詞を選択	13	2.4%
受動態関連	13	2.4%
時制関連	12	2.2%
選択肢の全てが受動態の動詞	12	2.2%
等位接続詞の前後の形式	8	1.5%
仮定法 (高校レベル)	7	1.3%
動詞を選択	6	1.1%
分詞を選択	6	1.1%
選択肢の全てが不定詞の動詞	6	1.1%
関係詞 (高校レベル)	6	1.1%
選択肢の全てが関係詞	5	0.9%
前置詞の目的語の動名詞を選択	4	0.7%
再帰代名詞	4	0.7%
不定詞を選択	4	0.7%
分詞構文 (高校レベル)	4	0.7%
関係詞を選択	3	0.6%
選択肢の全てが接続詞	6	1.1%
選択肢の全てが分詞	3	0.6%
命令文を選択	3	0.6%
時制関連 (高校レベル)	3	0.6%
助動詞の後に続く動詞の原形を選択	2	0.4%
選択肢の全てが前置詞の目的語の動名詞	1	0.2%

1. The buildings in the Jamison Complex are open until 7:00 P.M. on weekdays, but staff with proper ----- may enter at any time.

(A) reinforcement (B) participation
(C) competency (D) authorization
(Educational Testing Service [2016: 92])

2. One of Mr. Oh's primary duties is the ----- of the corporate food service.

(A) manage (B) manages
(C) manageable (D) management
(Educational Testing Service [2008: 48])

例文 1 では、選択肢が全て名詞であるので、意味で考えるしかないが、例文 2 では、選択肢の品詞が異なるので、意味だけでなく、文の構造も解答のヒントとなる。よって、細分類の項目では、「選択肢が全て名詞」の場合と「名詞を選択」の 2 種類に細分化している。また、中学英文法の重要性を確認するために、代名詞の分類は、再帰代名詞と人称代名詞に細分化し、動詞の分類も「助動詞の後に続く動詞の原形を選択」する項目を追加した。意外と思われるかもしれないが、TOEIC L&R の問題には、次のような簡単な問題も出題される。

3. While he is away from the office, we can reach Mr. Cho by calling ----- home phone number.

(A) himself (B) him
(C) he (D) his

(Educational Testing Service [2014: 86])

4. Next year Khosun Industries will ----- several employees to work in the new factory in Kuala Lumpur.

(A) sent (B) send
(C) sends (D) sending

(Educational Testing Service [2014: 48])

上記のような問題は、単語の難易度の問題を考えなければ、中学 1 年生レベルの問題ということになる。英文法の基礎をしっかりと身に付けさせることの重要性を示す問題である。

表 3 は、表 1 で提示した高校レベルと記載の「仮定法」「関係詞」「分詞構文」「時制関連」の項目について、合計で 20 項目しかないのも、もう少し詳細に分類し、細かい内容がわかるようにして提示したものである。高校レベルが必要な英文法事項は細分類しても、種類がそう多くないことが分かる。

表 3. 高校レベルの出題項目の出現回数（細分類）

項 目	出題数	%
命令・要求・提案動詞 that … 動詞原形	4	0.7%
分詞構文	4	0.7%
仮定法過去完了	2	0.4%
関係詞 whichever	2	0.4%
時制（現在完了進行形）	2	0.4%
要求・勧告・願望形容詞 that … 動詞原形	1	0.2%
関係詞 what	1	0.2%
関係形容詞 during which time	1	0.2%
関係副詞 how	1	0.2%
前置詞＋関係代名詞	1	0.2%
時制（未来完了）	1	0.2%

4. 考 察

(1) 出題項目の出現回数

調査した TOEIC L&R の540問の該当問題において、使用されている単語はすべて意味・用法がわかっていると仮定した場合に、高校レベルの文法の知識を必要とする問題は、たった20問（3.7%）しかないという結果は、これだけで、語彙力の強化と中学英文法の習得の必要性があることを表している。

ここで、少し詳しく分析結果を見ていこう。今回の調査は、「使用されている単語はすべて意味・用法がわかっていると仮定する」というかなり大胆な前提のもとに実施されており、現実離れしていると考えられるかもしれないが、あらためて、語彙力の重要性を示したものではないかと考えている。語彙力を増強するには、個々人の日々の努力だけでなく、様々な方略をうまく組み合わせる必要があるし、英語教師による適切な辞書指導も重要である（cf. 吉井 [2009]、投野 [2015]）。また、学習には個人差もあり、習得には時間もかかる。根気強い指導が必要である。

特に、TOEIC L&R では、ビジネス用語など学生には馴染みのない語彙も多数出題されることから、それだけで難しいと感じ、中学レベルの文法力を駆使すれば、解ける問題でさえも諦めてしまう者もいる。そのような学生にも、今回の調査結果を示すことで、単語は難しいかもしれないが、95パーセント以上が中学校レベル

の文法で解ける問題だということを認識させることができれば、語彙力の強化の動機付けにもつながるであろうし、中学英文法を確実にマスターするために努力をしてくれるのではないかと考えている。さらに、現場の教員にとっても、授業内容を考慮する際の大きな指針となると考えている。アルク教育総合研究所（2015）には、以下のような記述がある。

中学英文法を単に知っているだけでは駄目です。マスターしていることがポイントです。この場合の「マスター」とは、4 技能のいずれも文法規則をあまり意識することなく高速で処理することができる、という意味です。……中学英文法を自由自在に操って文を組み立てられる、などの状態が「マスターしている」という状態だと言えるでしょう。（p.131）

この中学英文法を「マスターしている」という状態になれば、単語やイディオムを覚えれば、かなりのコミュニケーションができるし、TOEIC の問題でもかなりの問題が解けることになる。この「マスターしている」という状態は、Gass *et al.* (2013) のいう“automaticity”の状態に近いものである。以下に少し引用する。

... the role of automaticity assumes great importance. When learning to play tennis, for example, one cannot deliberate about every movement of the racquet or movement of one's feet. Rather, when skilled players approach the net, they automatically move their feet in a particular way and get the racquet set, without thinking deliberately about each step or position of the racquet. (p.256)

筆者は、語学とスポーツの類似性（cf. 竹内 [2007]）について、授業でも話をすることがあ

るが、上記の記述は、正にその類似性をわかりやすく説明してくれている。ただし、教室での英語の授業においては、白井（2012：74）も指摘しているように、自動化理論の限界を認識した上での指導も必要となろう。つまり、英語の大量のインプットを生徒や学生自身が授業外でも行うような動機付けをしっかりと行うことも非常に重要である。

(2) 出題項目の出現回数の細分類

次に、表2に提示されている出題項目の出現回数の細分類の上位10項目に注目してみる。1位の「選択肢の全てが名詞」については、選択肢に名詞が並んでいるので、この空所に入るのは名詞だということがわかる。よって、これはこの問題の英文の意味を解釈できる語彙力があれば、解ける問題だということになる。もちろん、英文の意味を解釈するためには英文法の力も必要であるが、中学英文法レベルで大丈夫である。しかし、中学レベルの文法力が大いに力を発揮するのは、選択肢に同じ品詞が並んでいない場合である。

次に、2位は「熟語関連」であり、本調査では「単語はすべて意味・用法がわかっている」ことが前提であるので、3位の「副詞を選択」について考えてみることにする。

5. To secure stability and safety, it is important to follow the instructions ----- when assembling the office bookshelves.
- (A) exactly (B) exact
(C) exactness (D) exacting
(Educational Testing Service [2016: 91])

この問題のように、副詞を選択する問題は空所に何も入れなくても、構造から見て文が成立する。英語の構造が理解できていれば、空所に副詞が入ることは自明である。逆に言うと、文の構造が理解できているかを確認するために、副詞を選択する問題が出題されるとも言える。

このような問題も、中学英文法で取り扱うような、文の作り方の基礎がしっかりできていれば、解くことができる。実際のコミュニケーションでも、正しい文の構造でコミュニケーションをとることができれば、それだけ誤解が生じる可能性も低くなる。日頃の英語の授業から、基本的な文構造を習得できるような反復練習が必要であるし、反復練習のための授業外での学習も重要である。

次に4位の「名詞を選択」を見てみることにする。この「名詞を選択」の問題は、誤解を恐れずに言えば、様々な品詞の表現がある中から、名詞表現を選択するのであるから、意味がわからなくても名詞が空所に入るということが理解でき、選択肢のどれが適切な名詞かの判別ができれば、解答できるということになる。そこで、2つのレベルでこの問題を考えてみよう。まず5文型のレベルで考えた場合に、主語あるいは目的語が入る部分が空所となっているとわかれば、名詞の働きをするものが入るとことがわかる。該当45問のうち24問がこれらのパターンである。主語や目的語は、英文の構造を理解するための最も基本的な事項で、中学英文法の中でも基本中の基本である。ただし、5文型の指導は、どうしても文法のための文法のような指導になりがちである。田地野（2011）に代表されるような「意味順（だれが / する [です] / だれ / なに / どこ / いつ）」で英語の構造を理解させるような指導も必要であろう。この「意味順」による指導では、日本語と英語の語順が異なることを意識させることができ、この語順でブロックごとに意味を成立させるように英語を並べていく。英語の「主語＋動詞＋…」の基本構造をしっかりと身につけさせることに役立つと考えられる。

「名詞選択」の問題のもう一つのレベルは、名詞を必要とする構造の理解である。例えば、「a＋名詞」のように、冠詞の後には名詞が来るという構造を理解しているかというレベルである。このような構造を理解していると、その

構造に不足がある場合は名詞が空所に入ることがわかる。このような構造から空所に名詞が入ることがわかるパターンは、主に「限定詞＋(形容詞句)＋名詞句」、「前置詞＋(限定詞)(形容詞句)＋名詞句」、「他動詞＋(限定詞)(形容詞句)＋名詞句」の3つがあり、これらのパターンで名詞を選択する問題は、45問中41問と非常に多いことがわかる。これらは、3つとも中学英文法で習う事項であり、単語が難しくなっても、構造をしっかりと認識するスキルがあれば、これらの問題は解けることになる。

次に5位の「形容詞を選択」を見てみよう。形容詞を選択する問題でも、前述の「限定詞＋(形容詞句)＋名詞句」、「前置詞＋(限定詞)(形容詞句)＋名詞句」、「他動詞＋(限定詞)(形容詞句)＋名詞句」のパターンが頭にあれば、「(限定詞)＋形容詞句＋名詞句」の構造が使えることになる。このパターンの問題は、44問中32問と多くの問題が該当する。また、中学校でも習う「S＋V＋C」のパターンでCの補語の位置に形容詞を入れるパターンの問題は44問中9問で、2つを合わせると44問中41問が中学校で習う最も基本的な事項で解答できることになる。「S＋V＋C」のパターンは、中学校の初期の段階で、He is a student. と He is happy. のように be 動詞の後に名詞が来る場合と形容詞が来る場合の違いを学習する。しかし、*He is happiness. のような文を大学生でも使ってしまうことがあることは、経験上我々はよく知っている。このような基本的な用法について、単語が難しくなったり、文が長くなったとしても適切に運用できる能力をしっかりと身につけるために、中学校の段階から反復学習が必要である。

6位から9位は選択肢の全てが同じ品詞となっているので、意味が取れないと解答ができない。よって、次は10位の「接続詞を選択」を見てみることにする。このパターンでは、24問中15問が「主語＋動詞」を含む節と節を結ぶ接続詞の問題となっている。よって、中学校で学ぶ「主語＋動詞」を含む節と節を結ぶ接続詞の用法が

理解できていれば、解答が可能な問題である。

このように前提として、使用されている単語はすべて意味・用法がわかっていると仮定してはいるが、すべての単語の意味・用法がわからなくても、中学英文法の知識があれば、かなり多くの問題が解けることがわかる。

(3) 高校レベルの出題項目の出現回数

では、次に高校レベルの文法の知識を必要とする20問について、考察を加えていく。表1に提示されているように、高校レベルの文法の知識を必要とする問題の大枠の種類は「仮定法」「関係詞」「分詞構文」「時制関連」の4パターンしかない。どの項目も高校で時間をかけて指導をされる分野である。TOEIC で高得点を取得するために頑張っている人たちにとっては、重点的に学ぶべき項目が明らかになったことは、朗報であろう。ただし、これらの分野は、習得が難しい分野でもある。また、一つ注意すべきことは、TOEIC の Part 5 は、基本的にアメリカ英語の用法であるので、慣れが必要な内容もある。例えば、高校の授業で「recommend that ... (should) ~」のように学んだ「命令・要求・提案動詞」のパターンでは、以下のように that 節中の動詞は原形となる点などである。

6. Berne Tech has recommended that its clients ----- the invoices from the last quarter for pricing irregularities.

(A) to review (B) reviewed

(C) review (D) reviewing

(Educational Testing Service [2014])

筆者は長年、TOEIC テストの対策講座の担当をしているが、この用法は、高校レベルの文法事項としては、最も出題されるパターンであるにもかかわらず、間違えてしまう学生が多いという印象を受けている。

表3には、これらの20問を細分化したパターンを掲載している。大学入試でもおなじみの事

項が並んでいる。受験英語で習得した英文法の知識は、当然 TOEIC L&R でも大いに活用できることがわかる。

(4) 指導上の留意点

TOEIC テストは、難しいという印象を受けるが、他の多くの事項と同様に、基礎・基本の習得なしには、高得点は望めない。実際のコミュニケーションにおいても、基礎・基本がしっかり身につけていれば、英語でコミュニケーションをとる際の誤解も少なくなるはずである。今回の調査により、難易度の高い TOEIC テストと言えども、中学レベルの英文法の知識で多くの問題が解けることがわかった。日々の英語の授業でも、中学英文法レベルの基礎・基本をマスターするために一定の時間を割くことが重要であると考えられる。ここで言う中学英文法のマスターとは、単に試験の英文法問題が解けることを意味しない。アルク教育総合研究所 (2015) にも以下の記述があり、筆者も同意見である。

中学英文法の「定着」とは、冒頭で述べたように中学英文法についての知識があるだけでなく、文法の知識を生かして適切な英文を書いたり、その知識を読解で活用したりできるようになることまでを含んでいます。中学英文法の知識を問う 4 択問題や穴埋め問題が解けるだけでは、全く意味がありません。(pp.110-111)

つまり、中学英文法の知識を十分に活用できるレベルまでしっかりと指導をする必要があり、基礎・基本をしっかりとマスターすることにエネルギーを注ぎ込むべきなのである。その上で、語彙力を身につける指導を並行して行うことが、非常に重要である。

次期学習指導要領でも、語彙力については、現行の高校卒業レベルで3,000語から、4,000~5,000語程度まで引き上げられることになっている。この目標を達成するためにも、中学英文法の定

着と語彙力の強化を平行して相乗効果を高め、確かな英語力を身に付けさせることが必要である。中学英文法をマスターし語彙力をつけることができれば、実際のコミュニケーションの場面でも、TOEIC の問題を解く場合にも、大きな力となるはずである。

5. ま と め

調査した 7 冊の TOEIC 公式問題集の「Part 5 単文穴埋め問題」の 540 問について、使用されている単語はすべて意味・用法がわかっていると仮定した場合に、中学英文法の知識だけで解ける問題の数は、540 問中 520 問であり、その割合は 96.3% であった。今回の調査結果により、単語は難しいかもしれないが、TOEIC 公式問題集の 95% 以上の問題が中学校レベルの文法で解ける問題だということが明らかになったことで、中学英文法をマスターすることの重要性を再認識させられた。また、文法事項の多くは、中学英文法レベルなのであるから、語彙力強化の必要性も明らかになったと言える。何事にも基本を大事にすることは必要であるが、TOEIC のような難易度の高いテストであっても、基本的な文法事項と語彙を習得することが、高得点につながるのである。

今後とも、日頃の英語の授業においては、基礎・基本をしっかりと身につけさせる努力をしていきたい。

注

- 1) 本稿で、筆者が「中学校で習う英文法 (中学英文法)」と言う場合は、現行の「中学校学習指導要領」第 9 章外国語に記述されている文法事項を指す。また、「高校レベル」と言う場合は、「中学校学習指導要領」には記載されていない事項で、「高等学校学習指導要領」に記載されている事項を指す。
- 2) TOEIC Program には、TOEIC Listening & Reading、TOEIC Speaking & Writing、TOEIC Bridge の 3 種類がある。TOEIC Bridge に関しては、初・中級の学習者向けに作られた試験である。

3) 使用した公式問題集は、以下の通り。

Educational Testing Service (2016)『TOEIC テスト公式問題集 新形式問題対応編』一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会。

Educational Testing Service (2014)『TOEIC テスト公式問題集〈Vol.6〉』一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会。

Educational Testing Service (2012)『TOEIC テスト公式問題集〈Vol.5〉』一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会。

Educational Testing Service (2009)『TOEIC テスト公式問題集〈Vol.4〉』一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会。

Educational Testing Service (2008)『TOEIC テスト公式問題集〈Vol.3〉』一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会。

Educational Testing Service (2007)『TOEIC テスト公式問題集〈Vol.2〉』一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会。

Educational Testing Service (2005)『TOEIC テスト公式問題集〈Vol.1〉』一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会。

4) 入力に関しては、スキャナーで読み取ることも可能であったが、自分で入力することによって、英語表現のレベル等も感覚的に掴みやすくなるのではないかという期待もあり、一つ一つ手作業で入力した。入力ミス等がないかの確認は、各項目に関して3回以上実施した。1回目は入力した後、2回目は解答をシートに入力する際、3回目はどの項目が使用されているのかをチェックする際である。

参考文献

- アルク教育総合研究所 (監修), 金谷憲 (編著), 片山七三雄, 吉田翔真 (2015)『中学英文法で大学入試は8割解ける! : 高校英語授業の最優先課題』アルク。
- 金谷憲 (編著) (2009)『教科書だけで大学入試は突破できる』大修館書店。
- 白井恭弘 (2012)『英語教師のための第二言語習得論入門』大修館書店。

日本英語検定協会 (2015)「大学入試センター試験との相関調査:「実用英語技能検定」と「TEAP」で実施」https://www.eiken.or.jp/teap/info/2015/pdf/20151007_pressrelease_testresearch.pdf#search=%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E5%85%A5%E8%A9%A6%E3%82%BB%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%83%BC%E8%A9%A6%E9%A8%93+%E8%8B%B1%E8%AA%9E+%E8%8B%B1%E6%A4%9C (2016年9月29日取得)

竹内 理 (2007)『「達人」の英語学習法: データが語る効果的な外国語習得法とは』草思社。

田田野彰 (2011)『どこからやり直せばいいかわからない人のための「意味順」英語学習法』ディスカヴァー・トゥエンティワン。

中央教育審議会教育課程企画特別部会 資料1「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ(素案)のポイント」http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryo/_icsFiles/afieldfile/2016/08/02/1375316_1_1.pdf#search=%27次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ%28素案%29のポイント%27 (2016年12月9日取得)

投野由紀夫 (2015)『発信力をつける新しい英語語彙指導: プロセス可視化とチャンク学習』三省堂。

文部科学省 (2015)「中学校学習指導要領(一部改正)」(2008告示) http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/ (2016年12月9日取得)

文部科学省 (2009)「高等学校学習指導要領」http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/03/30/1304427_002.pdf (2016年12月9日取得)

吉井誠 (2009)『第二言語におけるリーディングと語彙学習: 付随的語彙学習における注の効果』溪水社。

Educational Testing Service (2016)『TOEIC テスト公式問題集 新形式問題対応編』一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会。

Gass, Susan M., Jennifer Behney and Luke Plonsky (2013) *Second Language Acquisition: An Introductory Course*. (4th ed.) Routledge.